

ウレタンゴム系塗膜防水通気緩衝工法の耐風性能
その2 JASS 8 耐風試験の結果

ウレタンゴム系塗膜防水 耐風性能 負圧
通気緩衝シート

正会員	○野々直行*	正会員	北清敏之*
同	蓮村和人*	同	島村浩行*
同	鈴木 博*	同	興石直幸**
同	清水市郎***		

1. はじめに

前報に引き続き、本報ではウレタンゴム系塗膜防水通気緩衝工法の耐風性能について、JASS 8 T-501「メンブレン防水層の性能評価試験方法 3.7 耐風試験」(以下 JASS 8 耐風試験)に基づき性能を評価し、前報で得られた試験結果を含め考察した。

2. 試験方法

2.1 試験体

試験に供したウレタンゴム系塗膜防水層は、前報と同様の通気緩衝工法 8 種類と比較用の密着工法 1 種類である。下地への接着方法も前報と同様である。(表 1)

表 1 試験体の種類

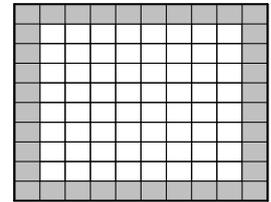
No.	種別	備考
1	不織布タイプ	穴なし(i) クロロブレン系接着剤
2		穴なし(i) ウレタン系接着剤 (a)
3		穴なし(ii) ウレタン系接着剤 (b)
4		穴あり ウレタン系接着剤 (c)
5	複合タイプ	自着(i) 改質アス系粘着材 (a)
6		自着(ii) 改質アス系粘着材 (b)
7		自着(iii) ブチルゴム系粘着材
8		接着剤 クロロブレン系接着剤
9	密着工法	—

なお、通気緩衝工法及び密着工法に用いたウレタンゴム系塗膜防水材は JIS A 6021 高伸長形 (旧 1 類) を使用した。またトップコートはアクリルウレタン樹脂系で統一した。防水材の塗布量は厚さに換算して 3mm 相当とし、トップコートの塗布量は 0.2kg/m² とした。



2.2 試験体の形状

1000mm×1000mm、厚さ 100mm のコンクリート板に各種仕様に従って試験体を作製し、168 時間以上養生した。試験体には中央部に 100φmm の絶縁箇所を設け、表面には試験中に発生するふくれ等の異状の発生個所が分かるように 100mm 間隔で縦横に線を記入した。なお、試験体数は各 1 体とした。



8 枠×8 枠内チェック

2.3 試験装置および試験工程

試験装置および試験工程は JASS 8 T-501 に準拠した。防水層に減圧槽をかぶせ、槽内の温度を 40℃に調整し、圧力を -2.0kPa, -5.0kPa, -10.0kPa の段階的に減圧し、各試験体とも 30 分間保持した。接合部を含めた防水層の破断、穴あきなどの異状の有無や、絶縁箇所の周辺のみくれ・はく離の進行状況を 10 分ごとに記録した。

3. 試験結果

3.1 ふくれ等の進行状況

結果を表 2 に示す。

表 2 JASS 8 耐風試験の結果

No.	種別	結果
1	不織布タイプ	穴なし(i) -10.0kPa/10 分端部よりふくれ発生
2		穴なし(i) -10.0kPa/30 分まで異状なし
3		穴なし(ii) -10.0kPa/30 分まで異状なし
4		穴あり -10.0kPa/30 分まで異状なし
5	複合タイプ	自着(i) -2.0kPa/20 分端部よりふくれ発生
6		自着(ii) -2.0kPa/10 分端部よりふくれ発生
7		自着(iii) -2.0kPa/20 分端部よりふくれ発生
8		接着剤 -2.0kPa/30 分中心部よりふくれ発生
9	密着工法	— -10.0kPa/30 分まで異状なし

Wind resistance performance of polyurethane waterproofing membranes with venting base sheet.

Part.2 Result of JASS 8 wind-resistant test

NONO Naoyuki, KITASE Toshiyuki,
HASUMURA Kazuto, SHIMAMURA Hiroyuki,
SUZUKI Hiroshi, KOSHIISHI Naoyuki,
SHIMIZU Ichiro

